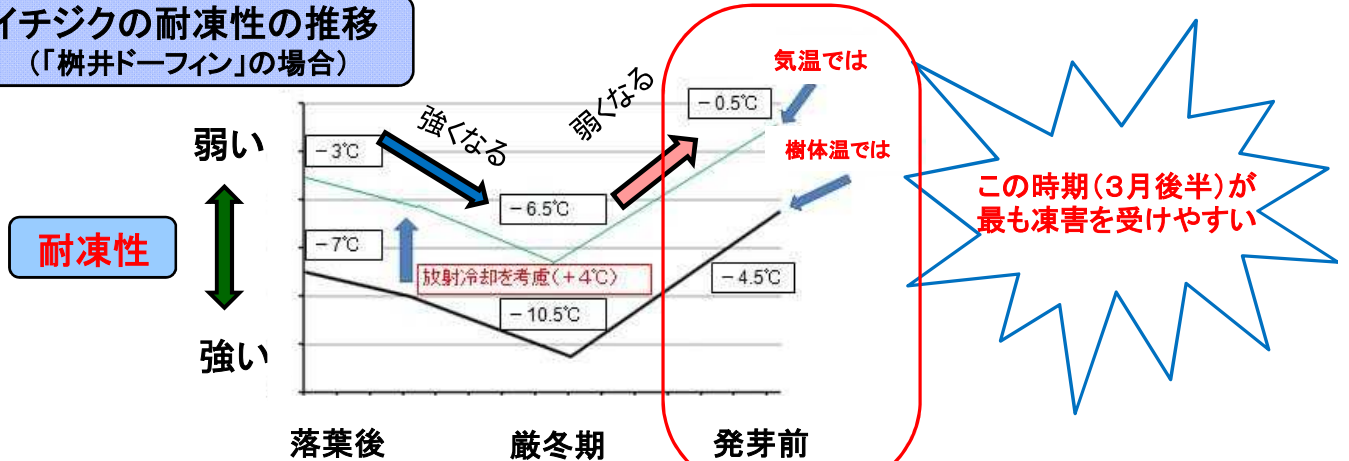


メッシュ気候図によるイチジクの凍害危険度予測

【背景・目的・成果】イチジク「樹井ドーフィン」は凍害に弱いため栽培適地が比較的狭く、産地拡大の障害となっていました。

そこで、あらかじめ凍害を受ける危険度を予測し、事前にどのような対策が必要であるかを1km間隔で地図上に示すことが可能となりました。

イチジクの耐凍性の推移 （「樹井ドーフィン」の場合）



3月後半の最低気温で危険度を予測

← 気象庁アメダスデータを用いて1km間隔で気温を推定

凍害を防ぐための防寒が必要

あるいは

稲わらによる防寒

アルミ蒸着フィルムによる防寒

稲わらなどの1重の防寒対策



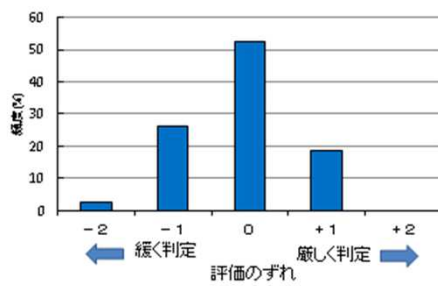
2重の防寒をしても凍害により地上部が枯死の可能性大

1重の防寒では凍害を防ぎきれない場合がある

「稲わら+アルミ蒸着フィルム」などの2重の防寒対策

予測なのでズレはあります

ぴったりの場合が約50%
前後1段階のズレを含むと約95%の適合率です。



約50%の適合率

【技術の活用】新植時にどのような防寒対策が必要であるかを、予測のズレはありますが、事前に確認できます。